

研究成果情報 1

[成果情報名] 系統豚「フジザクラ」を利用した同一品種内交雑による種豚能力の向上

[要約] 米国アイオワ州産ランドレース種（アイオワ導入豚）との交雑により生産された子豚は、発育性が良好であり、乳頭数も増加し、種豚としての繁殖性の向上も期待される。また、ニホンカイL2及びフクシマL2との交雑により発育性が向上した。ニホンカイL2との交雑により生産された子豚は、肢蹄の強化が期待できる。

[キーワード] フジザクラ・ランドレース種・系統間交雑

[担当] 山梨畜試・養豚科

[連絡先] 055-273-6441

[区分] 関東東海北陸農業・中小家畜

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

本県では、ランドレース種の系統豚を造成し、平成2年に「フジザクラ」として認定を受けた。その後、他の血統を混ぜない閉鎖群という環境で、維持を続けてきたが、繁殖成績等の低下が見られるようになってきた。そこで、外部から導入した優良で能力の明らかな同一品種の系統豚等と交雑することで、「フジザクラ」の能力を活かしたランドレース種の優良種豚生産を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. フジザクラと、アイオワ導入豚との交雑により、生産頭数が増加し、育成率も向上した（表2）。また、アイオワ導入豚との交雑では、フジザクラと比較して一腹当たりの頭数が多いにもかかわらず、離乳体重が増大する傾向がみられ、強健性が期待できる（表2、図1）。
2. アイオワ導入豚との交雑により子豚の乳頭数が増加し、繁殖成績の向上が期待できる（図2）。
3. 発育性は、ニホンカイL2、フクシマL2との交雑により向上した（図3、4、5）。
4. 肢蹄得点は、ニホンカイL2との交雑により向上がみられ、強い肢蹄をもつ繁殖豚の確保に期待ができる（図6）。

[成果の活用面・留意点]

1. 種豚としての繁殖性については、今後検定を予定している。

[具体的データ]

表1 交配表

区分	組合せ
対照区(C)	フジザクラ♀ × フジザクラ♂
1区	フジザクラ♀ × ニホンカイL2♂
2区	フジザクラ♀ × フクシマL2♂
3区	フジザクラ♀ × アイオワ♂
4区	アイオワ♀ × フジザクラ♂

表2 繁殖成績

区分	腹数 (腹)	生産頭数 (頭)	離乳頭数 (頭)	育成率 (%)
C区	19	6.9	6.0	86.6
1区	4	5.8	5.3	92.9
2区	5	8.0	6.6	83.2
3区	4	9.5	8.3	88.5
4区	6	8.8	8.0	92.5

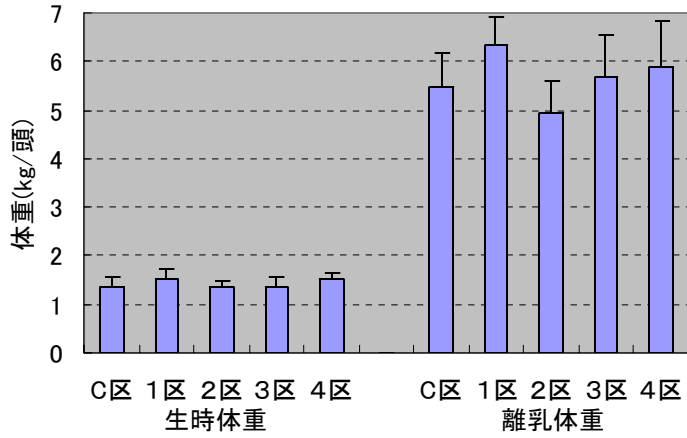


図1 哺育成績

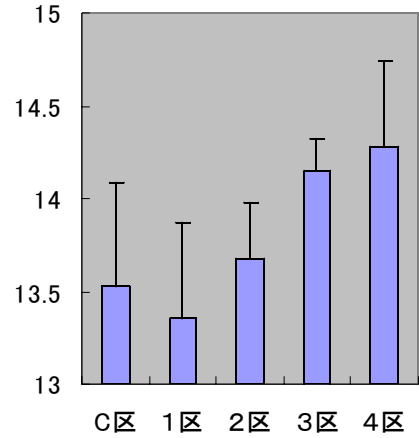


図2 乳頭数

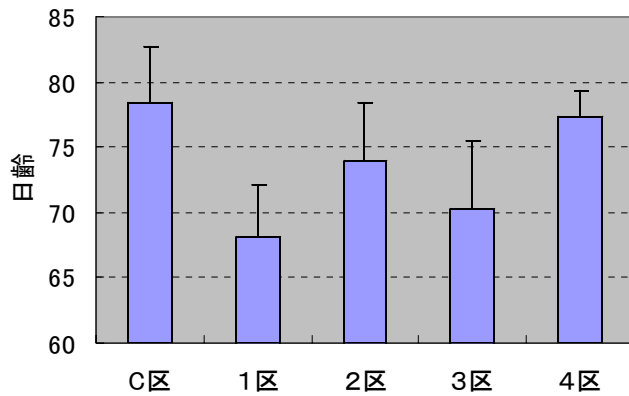


図3 30kg到達日齢

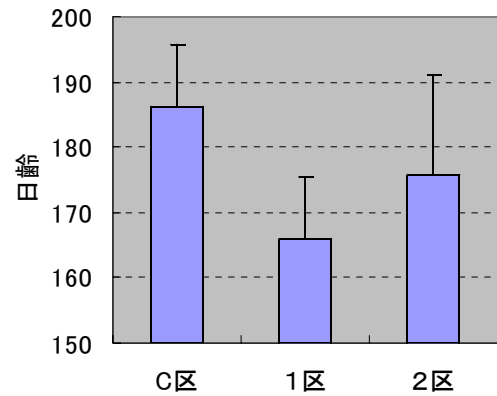


図4 100kg到達日齢

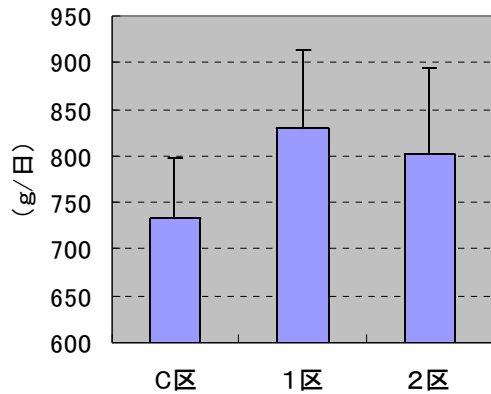


図5 1日増体量^{※1}

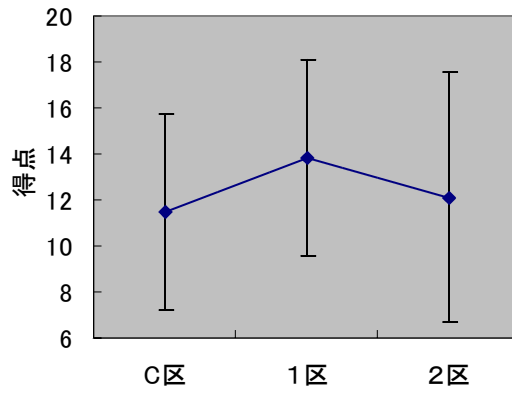


図6 肢蹄得点^{※2}

※1 増体量は約30kg～110kg間で算出

※2 岐阜県方式の肢蹄評価（110kg時に評価）：得点(2～21)

=前肢形(1～3)×前蹄形(1～3)+後肢形(1～4)×後蹄形(1～3)

[その他]

研究課題名：系統豚「フジザクラ」の組合せ検定

予算区分：県単

研究期間：平成2年度～

研究担当者：金高弘志・石田昌弘・赤尾友雪

発表論文等：山梨県畜産試験場研究報告掲載予定